

富山県高岡市
福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅳ

2006年3月
高岡市教育委員会

序

平成17年11月1日、高岡市と福岡町は合併しました。新高岡市では、「水・みどり・人 光り輝く躍動のまち高岡」を市の将来像に掲げて、まちづくりを進めています。そして、「輝かしい歴史・文化資産を生かした個性豊かなまち」の実現を基本目標のひとつにしています。

さて、遺跡を保護することは、歴史や文化資産を保護することにあたります。そして、保護した文化資産が、今を生きる私達の暮らしはどう折り合いをつけ、活用できるかという点について、関心が寄せられるようになってきました。遺跡の保護は、遺跡の破壊を作り開発行為と非常に近い関係にありますが、従来の対立型の構図から調和型に変化しています。これは、遺跡の活用に対する地域住民の思いが少なからず反映していることの表れだと思われます。

旧福岡町全域を対象に開始した詳細分布調査も4年目を迎えるました。今回の調査により、開発行為が集中する平野部の調査を完了し、これまで未確認だった歴史の一端を明らかにする成果を得ることができました。そして、より正確な遺跡位置が明らかになってきたことで、迅速で円滑な開発の実施に結びしていくものと思われます。地域と共に歩む埋蔵文化財行政を進める上で、今後もこの調査成果が活用されることを願います。

最後に、調査の実施にあたり御協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

高岡市教育委員会
教育長 村井 和

例　　言

1. 本書は高岡市教育委員会（旧福岡町教育委員会）が国庫補助を受けて実施している福岡町内遺跡詳細分布調査の4年目（2005年度）の分布調査報告である。
2. 調査は、高岡市教育委員会（旧福岡町教育委員会）が主体となり実施した。
3. 調査事務局は高岡市教育委員会文化財課（旧福岡町教育委員会生涯学習課）に置き、主任 栗山雅夫が調査事務を担当し、文化財課長笠島千恵子（参事 佐伯邦夫）が総括した。調査担当者は次のとおりである。

高岡市教育委員会 文化財課（旧福岡町教育委員会 生涯学習課）

主任（主任文化財保護主事） 栗山雅夫

4. 本書の編集・執筆・写真撮影は、高岡市教育委員会（旧福岡町教育委員会）栗山が担当した。
5. 本書の図版の遺物番号は実測図・写真図版ともに統一している。
6. 現地調査・資料整理・報告書作成にあたって、下記の参加を得た。
中田郁子
7. 採集遺物及び記録資料は、高岡市教育委員会が保管している。
8. 遺物の分類及び県内の一括埋蔵鉄のデータについては、富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 宮田進一氏のご教示を得た。記して謝意を表する。

目 次

序 文

例 言

目 次

第1章 はじめに

第 1 節 位置と地形	1
第 2 節 調査に至る経緯	1
第 3 節 2005年度調査地区の概要	
I 地名各説	3
II これまでの遺跡調査成果	5

第2章 調査概要

第 1 節 調査の経過	6
第 2 節 調査の成果	
I 遺跡各説	7
II 小 結	14

写真図版

図版 1 航空写真(1)(旧福岡町域)	
図版 2 航空写真(2)(旧福岡町－旧高岡市)	
図版 3 遺跡写真(1)	
図版 4 遺跡写真(2)	
図版 5 遺跡写真(3)	
図版 6 遺跡写真(4)	
図版 7 遺物写真(1) 一括埋蔵鏡	
図版 8 遺物写真(2) 表探遺物	

図版目次

第 1 図 高岡市福岡町位置図	1
第 2 図 調査地区測図	2
第 3 図 2005年度分布調査対象地位置図	4
第 4 図 浅井城縄張図(高岡 徹作図)	8
第 5 図 遺物実測図(1)	9
第 6 図 赤丸城縄張図(高岡 徹作図)	10
第 7 図 遺物実測図(2)	13
第 8 図 遺物実測図(3)	13
第 9 図 2005年度分布調査成果図	17
付 図 2005年度分布調査結果概要図	

表 目 次

第 1 表 時代別採集遺物一覧	6
第 2 表 舞谷前田島遺跡－括埋藏鏡 線種一覧表	15
第 3 表 調査遺跡一覧	16

第1章 はじめに

第1節 位置と地形

高岡市福岡町は富山県の北西部に位置している。平成17年11月1日、旧福岡町は、隣接する旧高岡市と合併して新たに高岡市が成立した。合併前の旧福岡町の人口は13,715人（平成17年10月末現在）を数え、合併後は182,961人（平成17年11月末現在）となり、県内第二の都市となっている。

さて、富山県では、県の中央を南北に走る呉羽丘陵を境目と見立てて、それぞれ「呉東」地区「呉西」地区と呼んでいる。高岡市は呉西地区の中心となる都市で、その周囲には北から時計回りに氷見市・射水市・砺波市・小矢部市が位置している。また、北西部では県境をまたいで石川県の宝達志水町・津幡町と接している。

行政区画は、東西約24.5km、南北約19.2km、面積209.37m²で、県全体の約5%を占めている。旧福岡町では1/4が平野で残る3/4が丘陵・山間地であったが、合併によって高岡市域の平野部が加わったことから、その比率は拮抗するものとなっている。

南東に広がる平野と北西に伸びる丘陵部は、境界付近を流れる小矢部川によって大きく二分される。このうち、丘陵部分は西山丘陵と呼ばれ、石川県境を越え能登半島まで続く宝達山系に連なっている。また、小矢部川から丘陵部に至る地区は、「川西」と通称されており、今回の調査対象地である「赤丸」は、この川西地区に位置している。川西一帯は小矢部川の氾濫原となる場所であるが、丘陵に近い部分では河岸段丘として標高が高い部分もあり、古くから集落が営まれていたことが指摘されている。実際に、古代の北陸道に比定される山根道は、西山丘陵裾を通過していたものと推定されており、福岡町赤丸付近には川合（川人）駅が置かれていたと考えられている。

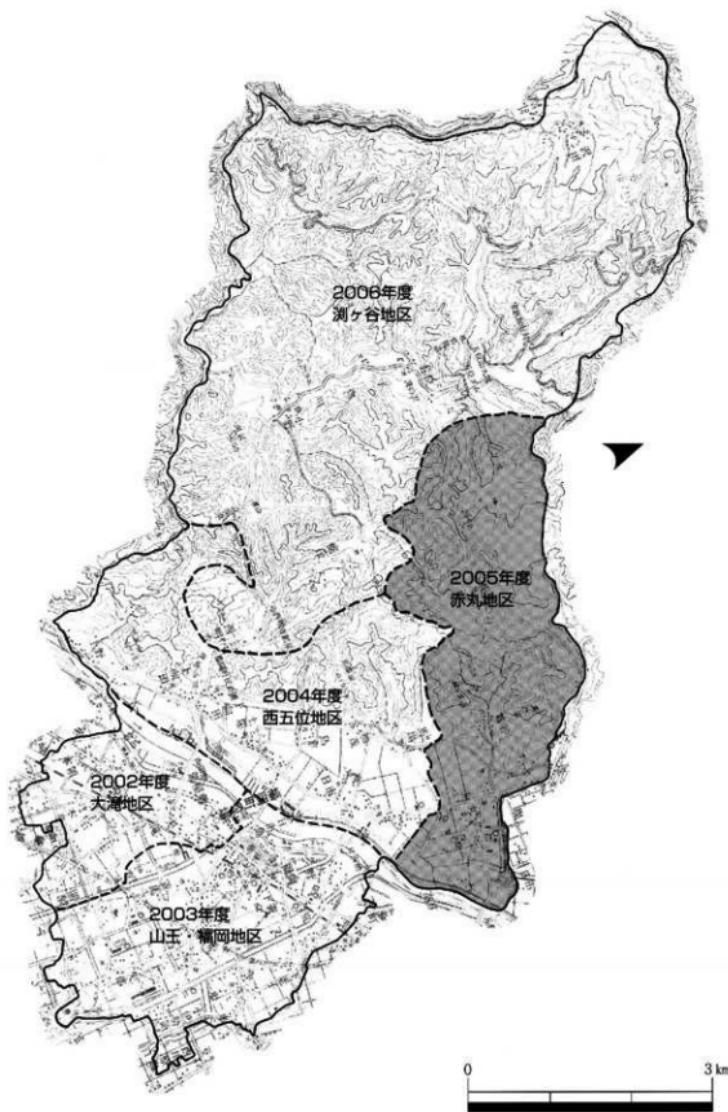


第1図 高岡市福岡町位置図

第2節 調査に至る経緯

福岡町内における埋蔵文化財包蔵地の地図は、昭和47年（1972）に富山県教育委員会文化課によって発行された『富山県遺跡地図』が底本となっている。平成5年（1993）には、富山県埋蔵文化財センターが『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』を発行しており、以降はこの地図をベースに、新発見遺跡や発掘調査成果などを反映させて遺跡の把握に努めてきた。この間の遺跡数の変遷をみると、昭和47年で39箇所だったものが平成5年には87箇所に増加しており、平成5年以降に新規追加された遺跡を加えると、詳細分布調査着手以前には103箇所まで増加している。過去の詳細分布調査では新たに6箇所の遺跡を確認しているが、それ以外にも3箇所の新発見遺跡もあり、調査成果をまとめる段階までに確認した遺跡は112箇所である。

現地踏査を伴う詳細分布調査の実施は、遺跡の位置や範囲を高い精度で把握する為に重要である。また、開発事業に伴う遺跡照会の利便性を向上させる上でも、高精度の遺跡地図を整備することは不可欠なものであり、旧福岡町を対象とする詳細分布調査を平成14年度から5年計画で実施している。



第2図 調査地区割図 (1/60,000)

第3節 2005年度調査地区の概要

I 地名各説

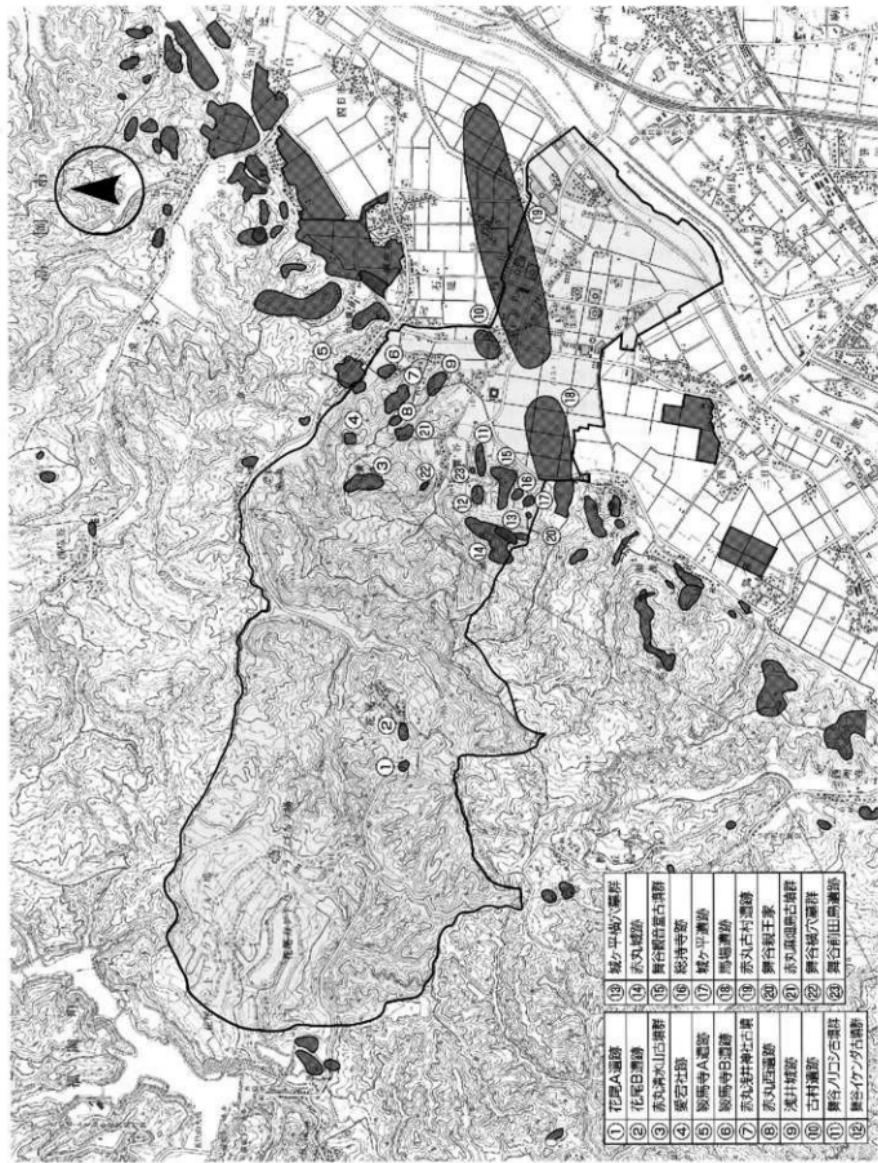
今年度の調査対象地は旧赤丸村地域にあたり、現在の自治会名でいえば、向野・川原・古村・鞍馬寺・舞谷・花尾の6地区で構成されている。明治22年の町村制施行時には、赤丸村・向野新村・舞谷村・花尾村の全部と高山島村・三日市村の一部が合併して成立している。

赤丸村の名称については二説の起源があると伝えられている。1つは、養老2年（718）泰澄大師が浅井神社の南側に草庵を建てて両部神道の靈場とし、浅井神社を地主の神として日の丸を祀って大般若経を唱える際に、神社のすべての器物に赤い日の丸の印をつけたことから赤丸と呼ぶようになったという説。もう1つは、仏に供える水「閑伽（あか）」にちなんだもので、かつて庄川と小矢部川が付近に流れ込んで水堀を作っていて、その水の流れが丸かったから「閑伽丸」＝「赤丸」と称するようになつたとする説である。両者ともに宗教に関連する名称であり、浅井神社の存在がこの地名に大きな影響を及ぼしていることが想起される。

赤丸地域は小矢部川の左岸、旧西砺波郡としては最北端に位置している。北を石堤地区、東を立野地区、南を西五位地区、西を五位山地区と接しており、規模は東西6km、南北1.53km、面積が8.568 km²を測る。このうち、東部の平野は1/3を占め、残りが丘陵部となる。

福岡町史によると、赤丸村に関係する伝承として以下の事柄が紹介されている。（『福岡町史』福岡町史編纂委員会；1969）

- ① 向野は、昔、小矢部川がもっと西側を流れていた頃、川の向かい側に位置していた場所は野原に過ぎなかつたが、そこを開拓して出来た集落であるということから向野と名付けられた。
- ② 向野新聞というところは、大野次兵衛が開墾したところで、今は次兵衛開と呼んでいる。この人物は慶長年間（1596～1614）に伊勢の国からこの地に移り住んで菅笠の製法を伝えた大野源作の子孫である。
- ③ 川原は、昔、小矢部川が西を流れていた時、磧であったものらしく、水路中の適地を選んで開墾したと考えられる。そこには、荒屋敷や中居という地名があつて、今も白川原という場所がある。
- ④ 古村は、古くから開拓された村とも考えられる。昔、浅井城が西側にあった頃は、古赤丸とも呼ばれていた。旧家として中山宗右衛門家がある。
- ⑤ 舞谷は、昔、浅井城が栄えていた頃、神事の舞台や舞楽のための邸宅などがたくさんあったので「舞い谷」と呼ばれていたが、その後「舞谷」に変化したと伝えられている。
- ⑥ 鞍馬寺（あんぱいじ）は、浅井神社の別当川人山鞍馬寺の所在地だったのでこの名称がついた。また、南北朝時代には、後醍醐天皇の皇子が浅井城に在城された時、京都を偲ばれて、ここを鞍馬寺と名付けたとも言われている。
- ⑦ 谷内は、谷の内にある集落なのでこの名がついたとされている。
- ⑧ 花尾は、昔、花園の古い畠跡があったので、花王（牡丹の花）と言つたが、その後ハナオ才村になり、その後ハナオと言つて、花尾村と書くようになった。花尾の先祖は、元は宮尾村にあつたが、その後花尾に移り住んだと伝えられている。



第3図 2005年度 分布調査対象地位置図（1/25,000）

II これまでの遺跡調査成果

赤丸地区でこれまでに確認されている周知の埋蔵文化財包蔵地は、23遺跡を数える。このうち、古墳群と横穴墓群で8遺跡、散布地が8遺跡を占め、2遺跡が中世の城館遺跡である。これまでに本格的な発掘調査が実施された遺跡はない。ただし、富山県指定史跡の「城ヶ平横穴古墳」は、明治41年（1908）に地元馬場村の石灰組合の人夫によって開口されている。この結果、多数の副葬品が掘り出され、それが新聞で報道されたことから俄かに注目を集めるとことなり、大勢の見学者とともに、柴田常惠、長谷部言人、坪井正五郎、高橋健白といった学者が現地を訪れて調査を実施している。

城ヶ平横穴墓群の発掘は、富山県の考古学史にとっても記念碑的な出来事であり、昭和40年には富山県指定の史跡となっている。西山丘陵には古墳とともに横穴墓も數多く築かれていることから、平成17年10月に横穴墓をテーマに「ふくおかの飛鳥時代を考える－富山・能登の横穴墓からのアプローチー」と題したフォーラムが福岡町教育委員会主催、富山考古学会共催で開催され、資料集も刊行されている。（『ふくおかの飛鳥時代を考える 資料集』福岡町教育委員会・富山考古学会編；2005）これまでに52基確認されているこの横穴墓群からは、6世紀末から8世紀初めの遺物が出土しているが、その主体となる年代は7世紀代である。さらに遺物の中には、県内ではわずかに2例しか出土していない鉄製の銀象嵌頭椎柄頭もあって、古くから研究対象となっている。頭椎柄頭を含む出土品の一部は、現在も東京国立博物館に収蔵されている。なお、県内の横穴墓の分布状況をみると、呉羽山丘陵地域（7.6%）、小矢部川左岸地域（44.1%）、氷見地域（48.3%）に大別されるが、城ヶ平横穴墓群は質・量ともに小矢部川左岸地域の代表格といえるものである。

小矢部川左岸地域については、西井龍儀氏、高岡徹氏によって精力的な現地踏査が成されており、これまでに多くの古墳群や城館遺跡が確認されている。（『福岡町中世城館遺跡調査報告書』福岡町教育委員会；2003など）赤丸地区についても、丘陵尾根上に古墳群が点在するとともに、山上に山城が築かれており、これに伴う集落遺跡の存在が推測される。また、西山丘陵の麓を走る「山根道」と呼ばれる旧道を古代北陸道に比定する考えがあり、駅家のひとつ「川人（川合）」駅が赤丸の浅井神社周辺一帯にあったとされている。これは浅井神社が延喜式内社であり、宮司が代々「川人」姓を名乗っていること。それに別当寺が川人山 鞍馬寺を号していること。さらに、小矢部市桜町と高岡市麻生谷で古代北陸道と考えられる構造が検出されていることから、その存在が想定されている。

第2章 調査概要

第1節 調査の経過

調査は、過去3カ年と同様に耕作期間を除く時期に現地踏査を実施した。調査体制は、調査員と調査補助員の2名で調査対象地全域の田畠を踏査し、その手法は下記で示す方法を原則としている。

- ① 遺物の集計は、田畠区画の大小によらず、畦畔で区切られた田畠1枚を最小単位とする。
- ② 踏査の基本動線は、一区画の田畠の外縁部分を周回するものとする。但し、圃場整備等によって通常区画数枚分に及ぶ大きさを持つ水田は、適宜縦断するラインを設ける。
- ③ 遺物整理の単位は、田畠1区画とする。
- ④ これまでに分布調査を実施している箇所については、過去のデータを採用することとする。

この調査方針は、詳細分布調査に着手した初年度から一貫して採用している。現地踏査者が2名と少人数である点については、調査費を低く抑えるとともに、遺物探集の精度が個人の能力によって影響を受けることを考慮し、採集誤差を排除することを目的としている。結果的に、広い面積を担当者が受け持つことになるが、現地の地形を体感することは、「埋蔵文化財」という特質を考えると、調査報告書の作成はもとより、遺跡の立地や範囲を検討する上で極めて重要であるとらえている。

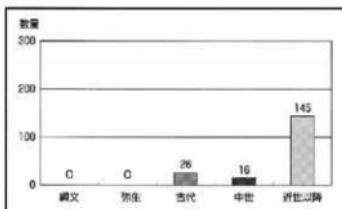
田畠の外縁部を周回する踏査動線については、分布調査時に遺物が採集される区域が田畠外縁に集まる傾向を考慮した。また、外縁には排水目的の溝を切っている水田が多く見られ、表土の状態にもよるが排水溝には30cm以上の深度を持つものもある。このため、表土上に散布している遺物を採集するよりも、溝内外の遺物を採集する方がより遺跡範囲を設定する精度が高まることを意識した。

遺物の整理については、旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世以降の時期に分類して整理を行い、各時期に帰属させた遺物の採集地点を1/5,000の地図上に落として周知の埋蔵文化財包蔵地として扱う遺跡の範囲を検討した。遺跡範囲の決定に際しては、中世以前の遺物採集地点を中心とし、近世以降の遺物の散布状況を参考とした。こうした遺物散布のドットのまとまり具合に加えて、旧地形や小字の分布状況を検討することで最終的な遺跡範囲を絞り込んでいる。

現地踏査は実働にして6日を費やした。踏査によって遺物を採集した田畠は82枚である。内訳は古代26点、中世16点、近世以降が145点で総数187点となる。これまでと同様に素焼きの土器については、著しく磨滅した小破片が多く時期の帰属が困難であり、周辺で採集した遺物の年代と齟齬たさない時期として扱っていることを断っておく。

グラフをみると、古代・中世・近世がみられるが、総量はこれまで最も少ない。

また、昨年調査した西五位地区では古代と中世が拮抗していたが、赤丸地区では古代の方が数量比としては多い。このことは、古代北陸道や川入駅といった古代遺跡の存在が反映されているものと思われる。



第1表 時代別採集遺物一覧

第2節 調査の成果

I 遺跡各説

1. 花尾A遺跡（遺跡番号422027）：変更無し

福岡町花尾集落の西側はずれにあたる山中に広がる遺跡である。舌状にせり出した丘陵上に遺跡範囲が括られている。遺跡の種別は散布地であるが、時代が不明となっており詳細は明らかではない。立地状況をみると、集落方向に向かって下る緩斜面上にあることから、遺跡が存在する可能性は捨てきれないため、遺跡範囲は変更していない。

2. 花尾B遺跡（遺跡番号422028）：変更無し

花尾集落西端、県道小野・上渡線に接する部分の山中に立地している。遺跡地図では遺跡の現況が山林となっているが、遺跡範囲に接する形で菅原が存在しており、近世の遺物を採集している。花尾A遺跡と同様に遺跡の種別が散布地、時代が不明であるため詳細は不明である。周辺まで開拓された田畠が広がっていることから、今後、新たに遺物が採集される可能性もあり遺跡範囲は変更せずにそのままとした。

3. 赤丸清水山古墳群（遺跡番号422033）：範囲変更

標高約170mの清水山山頂に並列して位置している。これまでに、直径8～16mの円墳が5基確認されており、このうち5号墳については、観音堂の祠を建てる際に一部削平を受けている。標高からいえば、周辺に点在する古墳群はもとより平野部を見渡せる立地状況にあり、相対的に被葬者の地位は高いものである可能性がある。

遺跡範囲は、確認されている古墳の分布に合わせて、標高を基準線として括り直した。

4. 愛宕社跡（遺跡番号422034）：範囲変更

清水山とは谷を挟んだ東側丘陵部、標高約120mの頂上部に位置している。遺跡の時代及び種別は不明であるが、塚状の高まりがあって、かつて愛宕社が存在していた場所だとされている。

遺跡範囲は、内容に不明な点が多いため、頂上部周辺一帯の標高を基準として設定し直した。

5. 鞍馬寺A遺跡（遺跡番号422035）：範囲変更

新谷内川と清水山に伸びる丘陵とのわずかな境目に位置している。現地は丘陵側から一段下がった場所の耕作地であるが、現況は耕作が放棄され草が生い茂って荒廃している。また、湧水が溜まり水か判然としないが水はけは悪く、表土は沼のような様相を呈している。

遺跡は、時代不明の散布地で登録されていたが今回の調査でも遺物が採集されなかったため、その詳細は明らかではない。

遺跡範囲は、調査前に設定されていたものを耕作地の形状に合わせて括り直した。

6. 鞍馬寺畠田遺跡（遺跡番号422036）：範囲・名称変更

鞍馬寺A遺跡と同様に新谷内川と丘陵との間に位置している。調査前は、鞍馬寺B遺跡として時代

不明の散布地として宅地部分を含む一帯に遺跡範囲が設定されていた。現地を歩くと、旧遺跡範囲の北西に隣接する畑で、中世土師器と近世段階の土器片が計2点採集された。表探地点は、鞍馬寺B遺跡が所在する耕作地部分よりも一段高い場所にあったことから、遺跡が存在する可能性はこちらの方が高いと判断し、表探地付近一帯に遺跡範囲を変更した。新たな遺跡の範囲は、北西-南東が約130m、北東-南西が約80mとなる。遺跡名については、字「畠田」を探用し、鞍馬寺畠田遺跡とした。

7. 赤丸浅井神社古墳群（遺跡番号422037）：範囲変更

清水山から浅井神社北側に伸びる丘陵尾根部分に位置している。尾根上の高まり部分で2基の古墳が確認されている。直径約7mの1号墳には盗掘坑がみられ、その隣に並ぶ2号墳は直径5m程の小円墳である。また、この2つの古墳から南東に尾根を80m程下ったあたりに、約6m四方の方形の盛土がみられ、古い社の可能性が考えられている。

遺跡範囲についてはこれまで盛土まで含めて設定されていたことから、今回もそこまで含めて等高線を基準に範囲の見直しを行った。

8. 赤丸西遺跡（遺跡番号422038）：範囲変更

浅井神社の脇から清水山東側の谷間に向かって伸びる林道鞍馬寺線の脇に立地する。時代不明の散布地であるが、耕作が放棄されて荒廃している現況のため新たな知見は得られていない。

遺跡範囲は調査前に設定されていたものを耕作地の形状に合わせて括り直した。

9. 浅井城跡（遺跡番号422039）：範囲変更

浅井城は、清水山から南東に向かって張り出した尾根上に立地しており、すぐ北側には式内社の浅井神社が位置している。郭が配置されているのは、標高約57mを測る丘陵先端のピーグ部分にある。繩張は、清水山からの尾根を堀切で切り、A・Bの2郭で構成される主要部分に切岸を施したもので比較的単純な構造である。

城主については、勝興寺の坊官であった下間氏の存在や、この地域に勢力を張った中山氏が考えられている。下間氏については、一向宗との関わりから永禄年間末期における一向一揆と増山城の神保長戰間の戦いに使用されたことが推測されている。また、中山氏については、同氏と浅井神社との関わりや、繩張構造、それに集落や街道との近接状況から、室町～戦国前期（15世紀頃）に日常的に居住する本城として築いたものと考えられている。

遺跡範囲は、繩張図に基づいて変更したが、その際には尾根上に展開する造構の存在を押さえた上で等高線の形状を加味しながら変更した。第4図 浅井城繩張図（高岡徹作図）

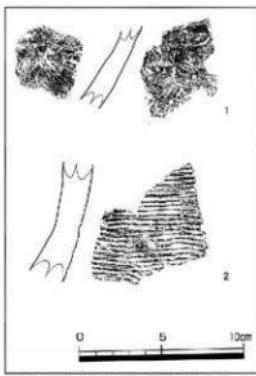


10. 古村遺跡（遺跡番号422040）：範囲変更

調査前までは、県道小矢部伏木港線が谷内川に交差する付近に位置しており、古墳時代の散布地として登録されていたが、現地を踏査したところ遺物の散布は認められなかった。ところが、100m程西側の地点より古代・中世・近世の遺物の散布が認められたことから、名称はそのままで遺跡の位置を変更した。

新たな遺跡の範囲は、東-西約260m、南-北約100mとなる。遺物の表探地点は、五位庄用水の東側宅地部分と西側の耕作地部分両方で古代と中世の遺物を拾うことができた。

採集した遺物は、古代の土師器と須恵器が2点、中世では1の珠洲焼の鉢と2の珠洲焼の壺か甕の破片がそれぞれ1点づつ採集され、近世の越中瀬戸も1点採集した。



第5図 遺物実測図(1)(1/3)

11. 舞谷ノリコシ古墳群（遺跡番号422041）：範囲変更

標高175mの城ヶ平山の東麓にあたり、舞谷集落のある谷の入り口に向かって伸びた北東端の尾根上に立地している。昭和53年の踏査では、5基の古墳群が存在するものと確認されていたが、福岡町社会福祉センターこぶし荘が建設された際に、この古墳群で最も大きな規模（直径18.5m、高さ2m、周溝有）を持つ3号墳と4・5号墳の3基が破壊されている。

平成17年に改めて現地踏査を行った際には、この丘陵西端部で標高約52mのところで長径約8m、高さ約1.5mの1号墳が遺存していることが確認された。1号墳については、從来円墳とみられていて、丘陵尾根を切断する区画溝が直線的であることから、方墳となる可能性も考えられている。また、1号墳の東側に位置する2号墳については、自然地形であるとする見方が強まる結果となった。

遺跡の範囲は、確認されている古墳の分布に合わせて、標高を基準線として括り直した。

12. 舞谷イケンダ古墳群（遺跡番号422042）：登録抹消

城ヶ平山の東麓にあって、昭和53年の調査時には4基の古墳の存在が推定されていたが、平成17年に改めて現地踏査おこなった結果、自然地形の高まりであるものと考えられる結果となつたため、遺跡登録を抹消することとした。

13. 城ヶ平横穴墓群（遺跡番号422043）：範囲変更

城ヶ平山の頂上から東側に少し下った標高150m～160m付近に立地しており、舞谷側で43基、馬場側で9基、合計52基の横穴墓が確認されている。この数は県内では氷見市の加納横穴墓群の88基に次ぐ量を誇る。標高についていえば、県内の横穴墓群の中でも群を抜く高所に位置しており注目すべき点といえる。前述したように、この横穴墓は明治41年（1908）に開口されており、副葬品はすべて持ち出されている。この時出土した遺物の中には鉄製銀象嵌頭椎柄頭があり、現在も東京国立博物館に保管されている。これらの点から、この横穴墓群は県内の横穴墓群の通例とは明らかに様相が異なっており、被葬者像等についても古墳との関連性も含めて検討する必要がある。

現地は、基盤層となる砂岩質の山肌が風化によって崩れている箇所も多くみられ、さらに山林の荒廃も進行しており、52基すべての横穴墓を特定することが困難になりつつある。このため、遺跡範囲については、若干幅を持たせた形で括り直している。

14. 赤丸城跡（遺跡番号422044）：範囲変更

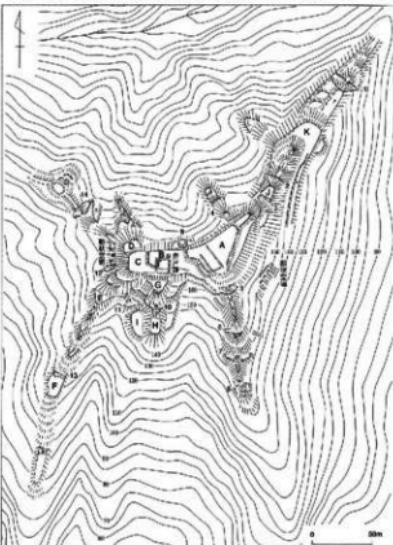
赤丸城は、標高約173mの城ヶ平山の山上一帯に遺構が配置されている。麓の舞谷集落からの比高差は約150mあって、福岡町域の中では元取山砦に次ぐ標高と比高を誇る。さらに、四方に伸びた尾根上に堀切や平坦面が広く配置されるなど、入念な縄張りが施されており町城隨一の規模と防御性を有する城である。

縄張は、山頂部のA郭を中心に各方向へ伸びる尾根を削ることで12の郭を配しており、切岸と堀切によって厳重に守られている。また、越中では戦国時代後期に設けられ、使用例も10箇所程度に限られる畝状空堀が存在しており注目される。A郭から一段下がるB郭には「殿様池」と呼ばれる素堀の井戸が存在しており、居住を考えた山城であることが指摘されている。この井戸の南側には、土壘によって開まれる9m×14m程度の方形区画があつて、重要な施設が置かれた場所であるとされている。畝状空堀の存在により、最終的に城が築かれた時期は戦国時代末期と想定される。

文献資料から城主は、小矢郡川左岸の五位莊に勢力を有していた国人領主の中山氏だと考えられており、先に記した浅井城の城主も務めていたとされている。このことについては、城の縄張や立地状況から、15世紀代の室町～戦国時代前期には浅井城が本城として使用され、16世紀代の戦国後期になると赤丸城に本城を移したものと考えられている。中山氏は、最終的には佐々成政に属していたものとみられている。天正13年（1585）、豊臣秀吉の越中侵攻を受けて、成政が秀吉に降伏した後は、赤丸を去って越前等に移り住んだとされている。

現在、敦賀市立博物館には、越前に移り住んだ中山氏の末裔にあたる「中山正瀬家文書」が残されている。文書は、近世における越前中山氏に関係するものが大部分を占めるが、その中に天正年間の年号を有する米の借用状や由緒書が含まれている。特に借用状は、貸主が「中山治部佐衛門尉」、借人が五位庄とその周辺の者であり、城主の勧農・経済活動を実証する貴重な資料といえる。ちなみに、借用状の下限は成政が秀吉に降伏する直前の天正13年（1585）3月14日となっており、中山氏と佐々の関係を如実に表している。

遺跡範囲は、縄張図に基づいて等高線の形状を加味しながら変更した。



第6図 赤丸城縄張図（高岡 徹 作図）

15. 舞谷觀音堂古墳群（遺跡番号422045）：範囲変更

城ヶ平山東麓では、中央部の最も高い丘陵上に立地している。丘陵端部の平野を見下ろすことができる場所に3基の円墳が確認されている。最も高い場所（72.8m）にある1号墳は、直径約11m、高さ約1.5mで、その北東に直径約9m、高さ1～2mの2号墳が隣接している。ともに盗掘とみられる浅い窪みが墳頂部にある。さらに丘陵先端には、丘陵尾根を切断して造った直径約9m、高さ1～2mの3号墳がある。

昭和53年の踏査時には、1号墳の西側約150mのところで4、5号墳が確認されていたが、平成17年に改めて現地を確認したところ、自然地形によるものと考えられる結論に至った。このため、新たな遺跡範囲は1～3号墳が位置する丘陵上に絞り込んだ。

16. 総持寺跡（遺跡番号422046）：範囲変更

総持寺は、現在高岡市関町に所在するが、元は別の場所にあったとされている。所在地については2案が提示されており、1つは国吉地区の右堤、もう1つは赤丸地区的舞谷である。果たしてどちらに総持寺の旧地があったかは、明確にされていないが、14世紀中頃には五位庄に総持寺があったことが確認されている。舞谷地内において総持寺の旧地とされている場所は、舞谷觀音堂古墳群南側の谷間である。福岡町史では、周辺に五輪塔や古井戸が存在していることが記されており、参堂正面と考えられる一帯は「総持寺下」という字で呼ばれていること。そして、檀家の数は赤丸村の方が多く、先年までウラ益には現在の総持寺から舞谷の旧寺地にある墓地へ墓参りがされていたこと。江戸時代末期の絵図には「そうじ寺下」という語句が舞谷地内に記載されていることなどを踏まえて、赤丸村に存在していた可能性が相対的に高いのではないかという結論に達している。

遺跡は、存在が推定されている谷間の南面する場所に設定しており、等高線を基準としてその範囲を括り直した。

17. 城ヶ平遺跡（遺跡番号422048）：範囲変更

城ヶ平山東麓の丘陵上に立地しており、総持寺跡がある谷間を挟んで舞谷觀音堂古墳群と向かい合う形になっている。遺跡の種別は、散布地とされているが時代が不明であり、その詳細は明らかではない。立地上は古墳が存在してもおかしくない場所であるが、これまでに確認はされていない。

遺跡の範囲は、等高線を基準として丘陵のピークを中心に括り直した。

18. 馬場遺跡（遺跡番号422049）：範囲変更

遺跡は西五位地区の馬場地内と赤丸地区的赤丸地内にまたがっている。昨年度は西五位地区が調査対象地であったため、馬場地内の部分について遺跡範囲の変更を行っている。昨年度は古代の遺物を採集しているが、今年度も古代の遺物4点（須恵器3点、土師器1点）と中世の遺物を1点（珠洲焼）採集しており、古代が遺跡の主体時期と考えられる。

昨年度の調査区域も含めた新たな遺跡の範囲は、東～西約500m、南～北約300mである。

19. 赤丸古村遺跡（遺跡番号422083）：登録抹消

赤丸の川原地区の集落から旧高岡市域の石堤六日市地区にかけて広がる遺跡で、北陸新幹線の建設

計画に関連する分布調査で新たに発見された遺跡である。踏査の結果、遺跡周辺はもとより、遺跡内においても採集される遺物は近世の後半以降のものばかりであった。このため、赤丸地内については遺跡に該当しないものとされることから、遺跡範囲も石堤地内部分のみとするようにした。

20. 舞谷親王塚（遺跡番号422101）：変更無し

宗良親王のものと伝承される舞谷親王塚は、城ヶ平山東麓にあって城ヶ平遺跡がある丘陵尾根の鞍部に立地している。周辺より1m程の高まりをもつ平坦面が塚とされ、中央には大杉が立っている。福岡町史は親王塚について「七間四方、高さ六尺の封土上には数株の老杉が生い茂り、・・・中央、樹下に五輪塔が置かれ・・・」と記載されているが、現状では五輪塔は見当たらない。

21. 赤丸麻糸古墳群（遺跡番号422103）：範囲変更

清水山から南東に向かって張り出した尾根の途中にあり、下ったところには浅井城がある。平成5年の遺跡地図では、赤丸清水山古墳群の支群とされていたが、平成13年に遺跡地図が見直された際に、新たに赤丸麻糸古墳群として独立させた。

これまでに標高80mの地点で、直径14m・高さ1.5m、直径10m・高さ1.2mの2基の円墳が確認されている。遺跡範囲は、確認されている古墳の分布に合わせて標高を基準線として括り直した。

22. 舞谷横穴墓群（遺跡番号422106）：範囲変更

この横穴墓群は、城ヶ平山と清水山に挟まれた谷あいにある舞谷集落の最奥部の清水山南麓側、標高34m～40mのところに立地している。この横穴墓の存在は、地元では古くから知られていたが、近年まで遺跡地図に登録されていなかったものである。2004年に西山丘陵整備に伴い西井龍儀氏らが現地を確認したこと、新たに遺跡として周知されるところとなり、2005年には測量と実測図化を行っている。

これまでに1～8号墓の東支群と9号墓の西支群が確認されており、東支群は、標高差5m程の範囲内で3段にわたって構築されている。これらは丘陵斜面のラインと直交せずに谷が開ける南側に向かって開口しており、構築時の意図を読み取ることができる。すでに開口していることから、遺物は確認することができなかつたが、玄室の遺存状況は良好であり、近接する城ヶ平横穴墓群と比較検討する際の資料となるものである。

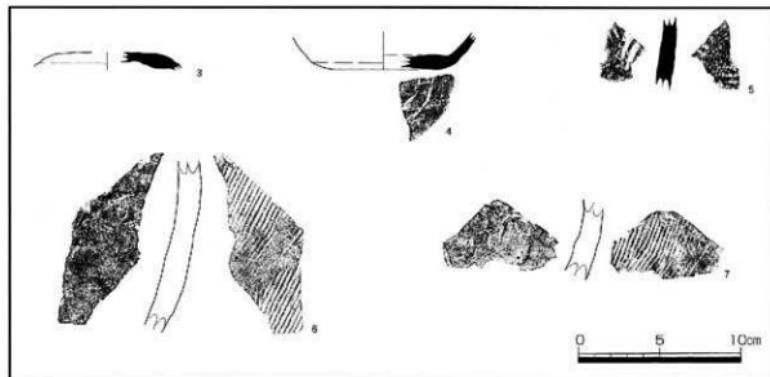
23. 舞谷前田島遺跡（遺跡番号422107）：範囲変更

三方を谷に囲まれた舞谷集落入り口の南側一帯にあたり、城ヶ平山東麓の縁辺部に位置している。この遺跡は、平成16年に「こぶし荘」直下の斜面の地すべり対策工事中に一括埋蔵鏡が発見されたことが端緒となっている。

鏡貨は、発見時の状況から木箱等に納められていたものと思われ、糸繩で結んで辨銭状になったものもある。総数で6,500枚余りと思われる鏡貨のうち、5,500枚についてクリーニングと分類を行っている。（第2表参照）この結果、最新鏡は、1,433年初鋤の宣徳通寶である。近年、水見市の西朴木フルヤチ遺跡の一括大量出土鏡（1,470枚）の整理を行った宮田進一の成果によれば、15世紀第2四半期～16世紀の実年代が与えられるものである。当該期は、赤丸城が機能していた時期と重なり、

また出土地点を敷地とする家の初代が永禄3年（1560年）と伝承されていること等から、城下の一部であった可能性が強い。現在、錢貨は高岡市福岡歴史民俗資料館に収蔵されている。

現地踏査によって採集した遺物は、古代遺物7点（須恵器6点、土師器1点）、中世遺物2点（珠洲焼1点、中世土師器1点）、近世土師器1点で、丘陵斜面の端部を削って造成した水田にまとめて散布していた。遺物には中世のものも含まれていたことから、丘陵縁辺部に沿って設けられた耕作地と宅地を対象に一括埋藏出土場所も含めて舞谷前田島遺跡とした。この結果、新たな遺跡の範囲は、南北約200m、東西約400mで細長い形状を呈している。

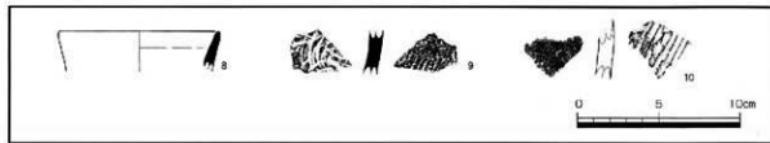


第7図 遺物実測図(2)(1/3)

24. 舞谷麻畠島遺跡（遺跡番号422113）：新規

清水山の南麓の谷間にあって、舞谷集落背後に設定した新規の遺跡である。遺跡の現況は、標高30m～40mの斜面で耕作されている畑地で、その範囲は南北約130m、東西約160mとなる。採集した遺物は、古代9点、中世2点、近世以降2点の計13点である。古代の遺物は、土師器1点と8の須恵器杯身等が8点、中世では10の珠洲焼等2点、近世では越中瀬戸の皿と肥前磁器を採集した。

周囲は、舞谷横穴墓群、赤丸麻畠島古墳群、浅井城跡、古村遺跡、舞谷前田島遺跡に取り囲まれ、遺跡のすぐ南側には永賢寺がある。福岡町史によれば、この寺は浅井城主の弟、中山次郎兵衛が仏門に入つて舞谷で寺庵を作ったことに始まり、永禄年間に守山へ移転し、その後高岡へ移つて明治33年に再び舞谷の現在地に戻つたとされている。開基の中山氏は、浅井城・赤丸城を拠点として、中世後半に五位莊に勢力を有した国人領主であり、中世の遺跡としても注目される。



第8図 遺物実測図(3)(1/3)

II 小 結

今年度の調査では、新規遺跡1箇所を発見した。また、古村遺跡と舞谷前田烏遺跡については遺跡の範囲や位置が大きく変更する結果となり、古墳群については確認されている墳丘位置に絞り込んだかたちに遺跡範囲を設定し直している。「川西」地区を含む平野部での分布調査はこれで終了することになり、残る調査対象地は山間部の「五位山地区」である。

調査前の赤丸地区の遺跡分布は、丘陵尾根上に多くの古墳群が立地し、丘陵裾部に古代と中世の遺跡が点在するという状況であった。ただし、赤丸古村遺跡及び古村遺跡については、丘陵から離れた平野部に立地していたが、調査の結果、遺跡の存在を示す遺物は採集されなかった。このため、前者のうち旧福岡町内部分については遺跡から除外し、後者については遺物が採集された丘陵裾に遺跡位置を移動させている。

採集した遺物は近世以降のものを除くと、古代と中世に限定される結果となった。これは、調査地内を古代北陸道が通過し、川入駅が比定される場所にあたることや、式内社の浅井神社が存在している影響が看取される。また、五位庄地域を治めた中山氏の居城と考えられる赤丸城・浅井城が、丘陵上に立地していることも遺物の採集内容に反映しているものと考えられる。特に、中世に関していえば、舞谷集落が位置している赤丸城と浅井城に挟まれた谷間に、遺跡が存在する可能性は十分に考えられていたが、これまでに詳細な分布調査はなされておらず注意を要する場所のひとつであった。

この谷間に位置し、遺跡範囲を拡大した舞谷前田島遺跡からは平成16年に6,500枚余りの中世の一括埋蔵錢が出土しており、赤丸城下と関係するものといえる。第2表に銭種一覧表を掲載しているが、銭種構成をみてもその内容は富山県内や全国の一括出土銭のそれと同様の結果となっている。埋蔵銭は、これまでの研究成果から赤丸城や浅井城が機能していた15世紀第2四半期～16世紀の年代觀が与えられ、しかも出土した敷地の家の初代は永禄3年（1560年）まで遡ることが伝承されており、城下における埋蔵者の姿を頬推できる可能性を持つ事例として興味深い。県内において1,000枚を超える一括埋蔵錢の確認例は16遺跡を数える。今回の資料は、工事中の不時発見であるが、発見から時を経ずして実見し整理することができたため、散逸もほとんど無く一括銭出土事例として良好な資料となるものである。

過去3カ年にわたる調査成果をみると、採集遺物にはそれぞれの調査対象地における中核的な遺跡の存在が数量比に反映されている傾向を読み取ることが明らかになってきている。この点で言えば、今回調査を実施した赤丸地区は、丘陵上の古墳は別として、古代を中心とする遺跡がメインとなる場所であることが指摘できる。

今年度の調査成果について特記すべき事項は、舞谷集落内にある永賀寺背後で袋小路状に丘陵間に広がる舞谷麻畠島遺跡を確認できたことといえる。現地は緩やかな緩斜面を持つ畠が広がっているが、そのほぼ全域で古代を中心に中世と近世の遺物を採集している。立地からは寺院関係の遺跡が存在する可能性も考えられる場所にあたるため、今後の課題としておきたい。

第2表 舞谷前田島遺跡一括埋蔵銭 銭種一覧表 ※これ以外に総状のものが1,000枚程度有

No.	銭貨名	時代	初發年	枚数	舞谷 %	富山 %	全国 %
1	開元通寶	唐	621	336	8位	8.27%	8位 6.09% 5位 7.28%
2	開元通寶(折二錢)	唐	845	11			
3	乾元重寶	唐	758				
	唐銭 小計			356	356	6.47%	3098 6.50% 267867 7.59%
4	光天元寶	前蜀	918	1			
	前蜀銭 小計			1			
5	漢文通寶	後蜀	938	1			
	後蜀銭 小計			1			
6	周通元寶	後周	955	1			
	後周銭 小計			1			
7	唐加赤寶	南唐	859	8			
	南唐銭 小計			8			
8	宋通元寶	北宋	960	24			
9	太平通寶	北宋	976	36			
10	淳化元寶	北宋	990	41			
11	聖道元寶	北宋	995	76	17位	1.41%	19位 1.32% 19位 1.46%
12	咸平元寶	北宋	998	91	16位	1.65%	16位 1.42% 16位 1.55%
13	景德元寶	北宋	1004	106	15位	1.92%	14位 1.83% 13位 2.03%
14	祥符元寶	北宋	1008	127	11位	2.30%	11位 2.64% 12位 2.26%
15	祥符通寶	北宋	1008	78	17位	1.41%	18位 1.52% 18位 1.52%
16	天禧通寶	北宋	1017	119	13位	2.16%	12位 2% 14位 1.99%
17	天聖元寶	北宋	1023	263	7位	4.78%	7位 4.35% 7位 4.45%
18	明道元寶	北宋	1032	22			
19	景祐元寶	北宋	1034	55	1位	12.01%	17位 1.42% 1位 1.21%
20	聖宋通寶	北宋	1038	661	2位	10.48%	
21	聖和通寶	北宋	1054	48			
22	至和通寶	北宋	1054	14			
23	嘉祐通寶	北宋	1056	59			
24	慶祐通寶	北宋	1056	121	12位	2.20%	20位 1.23% 15位 1.84%
25	治平元寶	北宋	1064	118	14位	2.14%	13位 1.84% 17位 1.53%
26	治平通寶	北宋	1064	18			
27	熙寧元寶	北宋	1068	522	4位	9.49%	4位 8.55% 3位 8.54%
28	元豐通寶	北宋	1078	648	2位	11.78%	1位 11.08% 2位 10.75%
29	元祐通寶	北宋	1088	463	5位	8.41%	5位 8.02% 4位 7.90%
30	哲聖元寶	北宋	1094	205	9位	3.72%	8位 3.48% 8位 3.70%
31	紹聖元寶(折二錢)	北宋	1094	4			
32	元符通寶	北宋	1098	66	19位	1.20%	18位 1.34% 20位 1.34%
33	哲宋元寶	北宋	1101	210	8位	3.81%	9位 3.23% 10位 3.42%
34	大觀通寶	北宋	1107	84	20位	1.18%	
35	政和通寶	北宋	1111	174	10位	3.18%	10位 3.07% 9位 3.52%
36	宣和通寶	北宋	1119	17			
	宋宋銭 小計			4452	4452	80.94%	39599 74.63% 271660 76.99%
37	建炎通寶	南宋	1127	1			
38	建炎通寶(折二錢)	南宋	1127	1			
39	淳熙元寶	南宋	1174	21			
40	紹熙元寶	南宋	1190	6			
41	慶元通寶	南宋	1195	10			
42	嘉泰通寶	南宋	1201	3			
43	開禧通寶	南宋	1205	4			
44	嘉定通寶	南宋	1208	11			
45	紹定通寶	南宋	1228	6			
46	鷹平元寶	南宋	1234	1			
47	寶祐通寶	南宋	1237	1			
48	淳祐元寶	南宋	1241	2			
49	度宋元寶	南宋	1253	4			
50	嘉定元寶	南宋	1260	5			
51	咸淳元寶	南宋	1265	4			
	南宋銭 小計			80	80	1.45%	1159 2.43% 67948 1.93%
52	正隆元寶	金	1157	9			
53	大定通寶	金	1178	3			
	金銭 小計			12	12	0.21%	85 0.18% 8164 0.17%
54	大中通寶	明	1361	1			
55	洪武通寶	明	1368	28			
56	永樂通寶	明	1408	530	3位	9.63%	3位 8.70% 11位 2.48%
57	宣德通寶	明	1433	12			
	明 銭 小計			571	571	10.38%	4746 9.95% 306272 8.68%
58	明成化通寶			18			
	明 合計			5500	5500	10%	47696 10% 3529020 10%

※富山県分は宮田2020を参考、全国は鉢木1999より

第3表 調査遺跡一覧

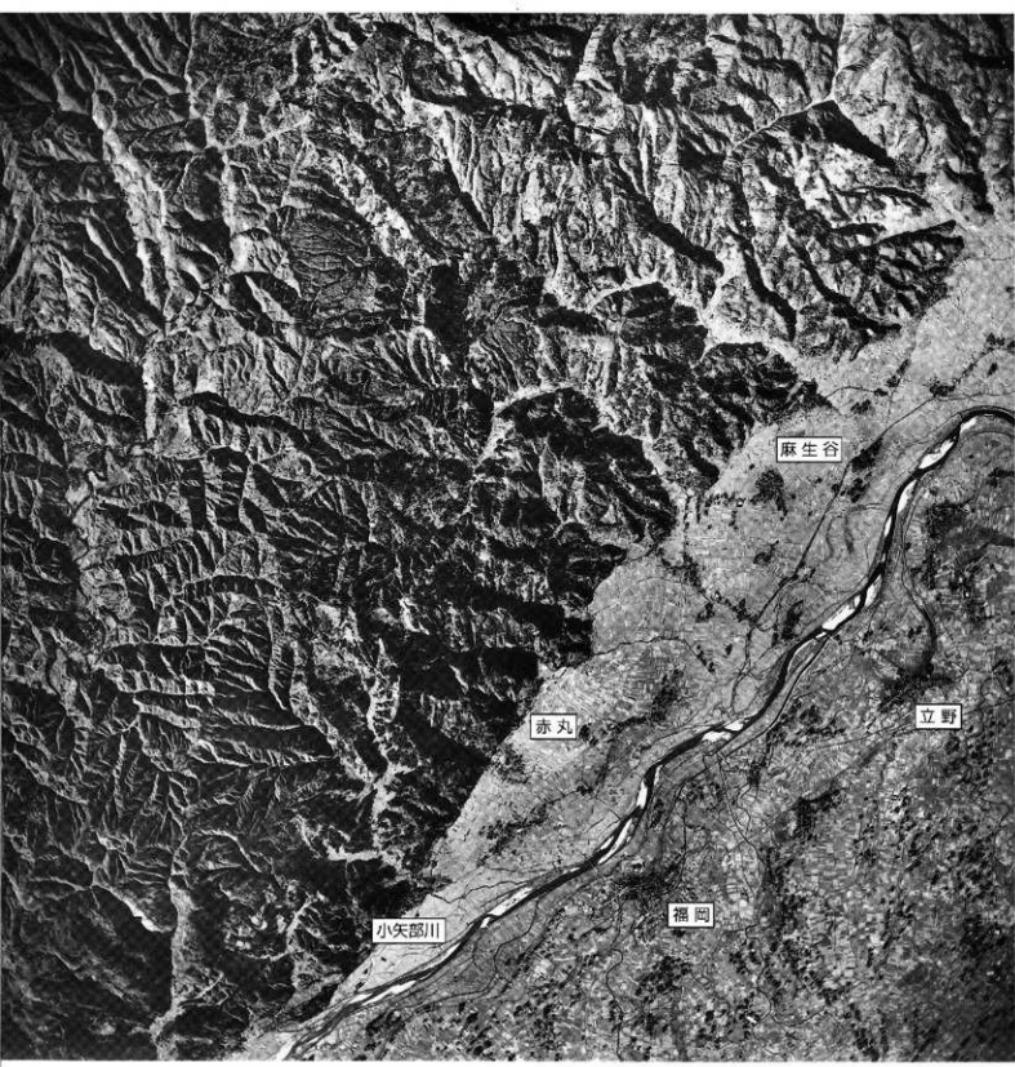
遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	現 況	備 考
1 422027	花尾A遺跡	福岡町花尾	散布地	不明	山林	変更無し
2 422028	花尾B遺跡	福岡町花尾	散布地	不明	山林	変更無し
3 422033	赤丸清水山古墳群	福岡町舞谷・赤丸	古墳・墓?	古墳・中世?	山林	範囲変更
4 422034	愛宕社跡	福岡町舞谷	不明	不明	山林	範囲変更
5 422035	鞍馬寺A遺跡	福岡町鞍馬寺	散布地	不明	山林	範囲変更
6 422036	鞍馬寺畠田遺跡	鞍馬寺畠田遺跡	散布地	中世・近世	耕作地	範囲・名称変更
7 422037	赤丸浅井神社古墳群	福岡町赤丸	古墳	古墳	山林	範囲変更
8 422038	赤丸西遺跡	福岡町赤丸	散布地	不明	山林	範囲変更
9 422039	浅井城跡	福岡町赤丸土屋	城館	中世	山林	範囲変更
10 422040	古村遺跡	福岡町赤丸	散布地	古墳・古代・中世	集落・耕作地	範囲変更
11 422041	舞谷ノリコシ古墳群	福岡町舞谷	古墳	古墳	山林	範囲変更
12 422042	舞谷イケンダ古墳群	福岡町舞谷	古墳	古墳	山林	登録抹消
13 422043	城ヶ平横穴羣	福岡町舞谷字城ヶ平	横穴	古墳	山林	範囲変更
14 422044	赤丸城跡	福岡町舞谷・馬場	城館	中世	山林	範囲変更
15 422045	舞谷観音堂古墳群	福岡町舞谷	古墳	古墳	山林	範囲変更
16 422046	慈持寺跡	福岡町舞谷	寺院	中世	山林	範囲変更
17 422048	城ヶ平遺跡	福岡町舞谷	散布地	不明	山林	範囲変更
18 422049	馬場遺跡	福岡町馬場	散布地	古代・中世・近世	耕作地	範囲変更
19 422083	赤丸古村遺跡	福岡町赤丸・高岡市	散布地	獨文?・古代・中世	集落・耕作地	登録抹消
20 422101	舞谷觀音塚	福岡町舞谷	塚	中世	山林	変更無し
21 422103	赤丸麻績島古墳群	福岡町赤丸	古墳	古墳	山林	範囲変更
22 422106	舞谷横穴羣	福岡町舞谷	横穴	古墳	山林	範囲金更
23 422107	舞谷前田島遺跡	福岡町舞谷	散布地	古代・中世・近世	集落・耕作地	範囲金更
24 422113	舞谷麻績島遺跡	福岡町舞谷	散布地	古代・中世・近世	耕作地	新規

参考文献

- 栗山雅夫 2001 「森原家伝来銭に関する一考察—中世後半から近代貨幣まで—」『富山県福岡町森原寄贈品目録』福岡町教育委員会
- 栗山雅夫 2003 「富山県福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅰ」福岡町教育委員会
- 栗山雅夫 2004 「富山県福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ」福岡町教育委員会
- 栗山雅夫 2005 「富山県福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅲ」福岡町教育委員会
- 高岡徹 2003 「富山県福岡町中古城跡調査報告書」福岡町教育委員会
- 鈴木公雄 1999 「出土銭貨の研究」東京大学出版会
- 福岡町史編纂委員会 1969 「福岡町史」福岡町役場
- 福岡町教育委員会・富山考古学会 『ふくおかの飛鳥時代を考える』資料集 福岡町教育委員会
- 宮田進一 2000 「中世の埋蔵銭—振り出された中世のお金—」富山県埋蔵文化財センター公開講座資料
- 宮田進一 2004 「氷見市西朴木フルヤチ遺跡出土の「括大量埋蔵銭」」『氷見市埋蔵文化財分布調査報告(丘陵地区)Ⅳ』氷見市教育委員会



第9図 2005年度分布調査成果図(1/11,000)



写真図版1 航空写真(1) 昭和22年撮影 (旧福岡町域)



写真図版2 航空写真(2) ※1947年撮影 (旧福岡町-旧高岡市)



写真図版3 遺跡写真(1) 上段：花尾B遺跡（東から） 下段：鞍馬寺畠田遺跡（南東から）



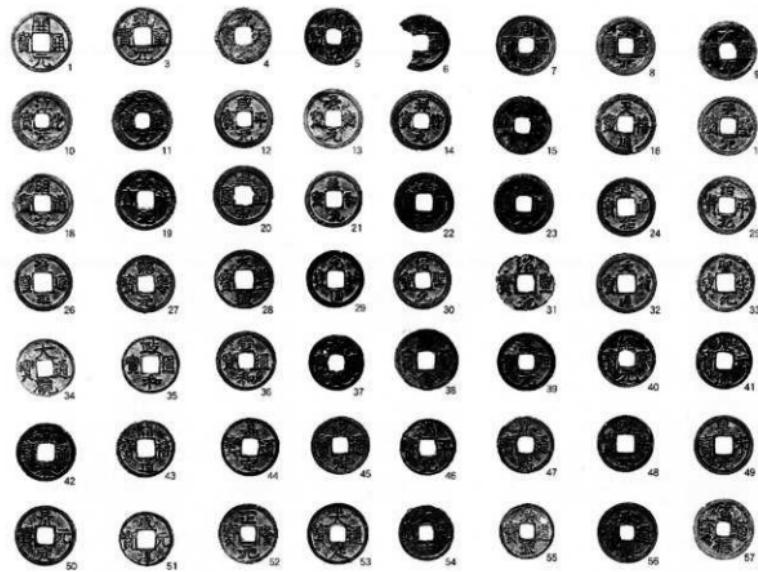
写真図版4 遺跡写真(2) 上段：浅井城跡（東から） 下段：古村遺跡（南東から）



写真図版5 遺跡写真(3) 上段：城ヶ平山【赤丸城跡・城ヶ平横穴墓群】（東から） 下段：馬場遺跡（東から）



写真図版6 遺跡写真(4) 上段：舞谷前田島遺跡（北東から） 下段：舞谷麻畠島遺跡（東から）



写真図版7 遺物写真(1) 上段：舞谷前田島遺跡 一括埋藏錢【錢種】※縮尺約1/2 下段：同【繕錢状況】

鞍馬寺烟遺跡



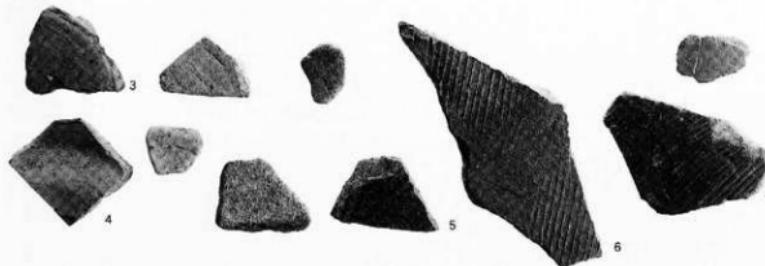
古村遺跡



馬場遺跡



舞谷前田島遺跡



舞谷麻畑島遺跡



報告書抄録

ふりがな	とやまけん たかおかし ふくおかまち まいぞうぶんかざいぶんぶちょうさはうこく4							
書名	富山県 高岡市 福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅳ							
シリーズ名	高岡市福岡町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	16							
編著者名	栗山雅夫							
編集・発行機関	高岡市教育委員会							
所在地	〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号 TEL0766-20-1463							
発行年月日	西暦2006年3月31日							
所 取 遺 跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
町内遺跡	たかおかし 高岡市 ふくおかまち 福岡町地内	16202	—	36度 44分 00秒	136度 56分 00秒	20051116 ～ 20060331	—	—
所 取 遺 跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
町内遺跡	—	古代 中世 近世	—	須恵器・土師器・珠洲焼・中世土師器・瓦質土器・錢貨・越中瀬戸・肥前陶磁・瀬戸			舞谷前田島遺跡出土の一括埋蔵 錢を報告	

富山県 高岡市

福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅳ

発行日 平成18年3月31日

編集・発行 高岡市教育委員会

〒933-8601

富山県高岡市広小路7番50号

TEL0766-20-1463

印 刷 株式会社チューイツ

